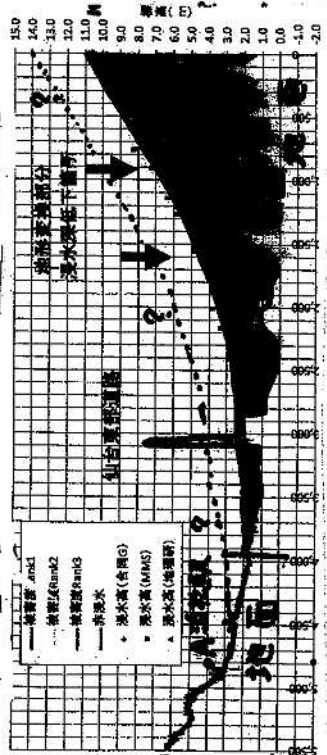


名取市閉上地区を含むエリアの標高と津波浸水高の断面図 国土交通省



名取市閉上地区の津波浸水高の履歴 (推定) (推定標高)

津波	発生時刻	最大浸水高 (m)	浸水範囲 (概略)
1	1707年10月28日	約10.0	山王塚付近
2	1707年10月28日	約12.0	山王塚付近
3	1707年10月28日	約14.0	山王塚付近
4	1707年10月28日	約16.0	山王塚付近

6

3 此州仁科庄若大豆郡本令元康之天皇地久祈願成就 倣治給本清右衛門
 須田國重助
 山本善左衛門
 大工藤四郎左衛門
 今満足子願誓萬當地頭北條美濃守御方于時慶享十二年二月吉日

4 訂立州巻之二
 分里ノ以下ノ田園皆水ニ浸ス(安永御紀慶長十一年白上巻) 慶長御紀慶長十一年白上巻
 月十六日仁科郷津波シテ地頭ノ殿ノ事凡十三町(安永御紀上巻) 慶長御紀慶長十一年

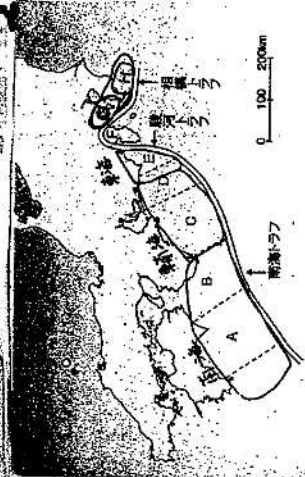


図2-1-1 過去の東海、東南海、南海地震 (震源位置)

震源位置	発生時刻	震度 (M)
A	884年	(8.1) ?
B	897年	(8.0-8.5) ?
C	1099年	(8.1) ?
D	1361年	(8.1) ?
E	1498年	(8.2-8.4) ?
F	1605年	(7.9) ?
G	1707年	(8.4) ?
H	1854年(II)	(8.4) ?
I	1854年(I)	(8.4) ?
J	1946年	(8.0) ?
K	1944年	(8.0) ?

8

〔念仏寺過去帳〕
 宝永海嘯ノ記
 宝永四丁亥十月四日晴天化日に異り例ならず暈なる日也
 牛の中刻俄ニ震動大地を動し古き家へゆりつぶすべくも見
 へ頼り外へ戸板又へ置やらの物取出し地震ゆりさげん事を
 恐れて其上に並ミ層層々肝をひやし只神仏の御力を祈ル計
 り也

大地震なる時にて必ず高浪ありと心得其一郷不殘言イ
 合地形高き所を自当として逃のひ身命を全りする時へ陰陽
 不順にて旋令如何様之天変に逢といへども満てへ閉ヶ閉ヶ
 てへ閉るの道理を以天運循環し陰陽和合して又順にかへる
 也 其時へ五穀豊饒として土農工商ともにそれぞれの家業
 を失はずして早ク業に取懸り不慮務ル時へ一旦家財不殘流
 失にをよぶといへども各得其所又本のごとく成事無災天
 は開てより以來生々し尽ル期なし 抑震高浪大風大雨雷比
 類陰陽不順なれば必ス起ル業て可有ものと心得其期に望て
 驚キ騒ク事なかれ為其是を善業スもの也

又曰ク同年閏月二十六日より富士山の東の方嶺の其嶺大
 衝を打かごとく何國ともなく此辺までも相聞ゆ富士近辺其
 子(銚子カ)まで灰砂より四五日の間へ星夜の分ちなく宛
 出しより焼仕且まで日数廿日ほどの間也其時富士の東の方
 に山八歩目程に小山吹出る則其名を宝永山と名付ク其謂へ
 宝永年中の事なればなり

于時元文四年己未十月四日
 亡父同族三十三回健良
 採録於南紀熊野尾瀬浦

小河善兵衛宣四十五歳(下巻)

7

〔宝永地震記〕丹羽長明 東京大学史料編纂所2062-4
 貴殿男女戸外へ走り出て異日同音に狗犬を呼ぶ、始之程は、
 カアカアと云しも、甚震之期には、皆、ハアハアと唱て、
 地を拵へ、樹木苑竹に取付ても可被汰倒(ゆりたおさるべき)
 やと恐怖する也、其変動の甚敷事、他事に譬へ難く、各驚き、
 周章る。
 (中略)
 皆一同に幸き目に逢たる事、無優劣、始より金銀家物に
 意を留めずば、死人は鮮(すくな)からんか